

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3391000118		
法人名	株式会社 成峰		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	岡山県新見市高尾232番地2		
自己評価作成日	令和3年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://pref.okayama.jp/page/detail-7669.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和3年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>アピールしたい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然に囲まれた中で閑静な住宅街の一角にある。敷地内には庭木や畑があり緑に癒されている。 ・町内会に属しており、生活と地域が密着している。 ・敷地内に別事業所があり、連携しながら職員一丸となって取り組んでいる。 ・勤続年数の長い職員が多く、認知症の理解に前向きで業務を遂行している。 <p>力を入れている事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者としの時間でも向かい合ってコミュニケーションをとり信頼関係の確立。 ・利用者を閉じ込めないケア(地域・地元の行事やイベントに参加する)・家族との関わり(絆)を大切に増やす。 ・今できている事をしっかりしていただけるように創意・工夫をする。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>代表者が新しくなり新体制での運営がされています。新代表が医療職であることの強みを活かし、これまでも看取り、重度化への対応を模索していた管理者とともに看取りへの取り組みに力を入れています又、新規併設された訪問看護事業所とも連携し新しいグループホーム花みずき構築に取り組んでいます。管理者の職員、利用者への細やかな心配り、気配りの中で穏やかな運営が以前と変わりなく行われています。医療面の充実と、生活の安定を図る介護職の働きが両輪となり挑戦をされています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍で行事や地域の方々との交流はできない状態です。中でも、認知症カフェは、お出かけスタイルのカフェを行い、地域の皆様、家族とのつながりを大切にしていきたいと思っている。面会では、窓越し面会も行った。	新しい経営母体になり管理体制が変更になりました。これまでつちかかってきた歴史、職員の想いを大切にし理念を大幅に変えることなく運営に活かされています。	新体制になり新たな理念の構築をされる中で、職員、管理者 代表が一つより、よい理念を作成し、運営に活かされることを期待いたします
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流は難しい状況ですが、今までの関りの中で、挨拶、新規事業についての挨拶等個々に訪問し理解を得ている。	学生の研修を受け入れています。以前はボランティア受け入れ地域イベント開催して地域との交流をされていましたがコロナの影響で今年度できていなのが現状です。ご近所の方への挨拶は常に行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催される研修会にはオンラインで参加しているR3年11月より新見大学の実習を受け入れ認知症高齢者の理解や生活の様子を実習してもらう。お出かけカフェでも今後現場より発信する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、令和2年4月より中止。文書により委員には照会した。R2年10月で経営者の方針で中止となる。	運営推進会議には以前は行政担当者、住民代表、地域の役職者、家族代表、入居者代表に毎回出席して開催していましたが、コロナの影響で集まることができないので、書面での報告になっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議は、令和2年4月より中止、文書により委員に照会。R2年10月で中止。困難事例の利用者の相談等継続して行う。キャラバンメイト研修会等参加。	これまで経験したことのないコロナ禍の状況の対応策を行政にも相談しながら日々対応に取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修は年2回以上内部研修で行っている。入居者の不安や混乱を除くケアを基本として抑制しなくてもリスクを下げる方法を職員で考え取り組んでいる。	研修を実施し拘束への理解を深めながら、ケア取り組んでいます。(ベッド柵も入居者が安全に動きやすい方法を考えて使用しています。)	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、全職員認識しています。オンラインでの外部研修の計画検討中。ヒヤリハットの事例を検討し、振り返り一歩手前では？と気付きをしている。職員のストレス解消にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護に関する制度の活用はないが、ミーティングの時に知識を学んでいる。利用者の個々の預り金等の管理においても同様と考え職員と共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書、重要事項説明書の説明は行って同意を得ているが、再度、行事等の際説明の機会を設けご家族にご理解いただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や気持ちを聞けるように努力している。ご意見箱を設置し利用してもらっている。日常生活の中で、又面会時等意見や提案をいただき職員全員で検討し実行、実施している。	以前は家族の来所もあり直接会話する機会が多かったがコロナ禍の影響もあり意見を聞く機会が少なくなっている様です。電話等で連絡を取る際に確認をし、反映に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回行う各ユニット内のミーティングで意見交換の場を設けています。その中で得られた事は必要に応じ代表者と管理者で意見交換を行い必要な改善を行っています。管理者会議も行っている。	職員会議を定期的に行い意見交換を行っています。代表者が医療職であることから医療に関する相談もスピード感を持って対応されている様です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のモチベーションアップの為職員に対しては積極的な研修への参加を勧めている。賃金改善については、年3回処遇改善加算を支給している。職員との個人面談を行っている。楽しみのイベントも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニットにおいて年間の研修計画に基づいて内外研修を実施しています。資格取得や研修への参加を積極的に勧め、そこで学んだ知識を内部研修という形で報し職員間で知識を深めています。防災士の資格取得にも助言あり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内外の研修会、及び地域密着型サービス連絡会はコロナ禍で休会だが、施設間でのネットワークづくりや情報交換を通して当ホームのケアに反映する働きかけを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まった時点で事前面接を行い、生活の状況、心身の状況生活歴等情報収集を行う。気付きシートを利用して利用者の思い、習慣、エピソード等把握し周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人やご家族と話す機会を1事例ずつ設け困っている事、家族が望んでいる事等しっかり聞き家族・介護職と一緒に考えサービス計画書に盛り込みサービス提供につなげるよう努力している。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性や早急な対応が求められる方については、各関連事業所と連携をとり柔軟な対応を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや食器拭きなど一人一人に応じた役割や作業をしていただいている。自主的にして下さることもあり、お互い感謝の気持ちを伝え合い生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限などあるが、電話、文書、写真などで本人の状況を共有し、お互いに安心して生活していただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら馴染みの関係継続につとめている。電話での会話、写真、タブレットでの交流等行っている。コロナ禍でも年末年始の外出・外泊ができるように調整している。	家族の協力も得ながら馴染みの関係継続に努めています。又、ホームでの暮らしが永い入居者は地域が馴染みの関係になっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの位置を変えたり、ソファで集ったり、玄関先の椅子で会話等環境を変えることで自発的に会話ができている。一つのテーブルを囲み昔はなし、風船バレー。歌の合唱等皆参加できる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了したケースには、電話でのご本人、ご家族の状況を確認している。入院中のケースについては、家族の相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	9名の皆さんの思いや暮らし方は異なるので、無理強いせず一人ひとり触れ合う時間を作っている。利用者の家族の状況が変われば思いや希望も変わるので家族と話し合い継続して把握するように努めている。	帰宅願望がある方など、現在の課題を引き出せる関わりに努めています。また家族と情報共有をしてさまざまな場面で理解を得ながら本人本位に検討して支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員一人ひとりが利用者に関わる中で、新しい情報を会話の中から聞き出し、共有している。以前利用していたサービスや内容や自宅での過ごし方等。環境改善にも目標設定して取り組んでいる。様式を使用して人物像を作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	季節、その日の中でも状況が違うことがある為、一人ひとりの生活リズムや状況を把握しながら起床時間希望、入浴や昼間の臥床を行っている。毎日の生活の中での家事を一緒に行うように段取りしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制を取り入れ毎月モニタリングを兼ねて家族連絡表を作成し家族に送付している。ミーティングでは職員と話し合い利用者主体のケアを考え、介護計画を作成、評価するなど業務を一緒に行えるよう考えている。	現行の取り組みに加え、本人、家族、職員による話し合いの機会を設け、より充実した介護計画の作成に向けて取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を生活記録に記入。定例のミーティングや申し送りを通じて利用者の変化や状況の共有を行っている。申し送りノート、受診ノートにより医療の状況、ケアの変更等の周知を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容を利用し好みの髪型や気になる顔そりも行っている。11月より学生の訪問で適度な刺激になり良眠にも繋がっている。学生の実習を受け入れている。GHだからできる外出支援の計画を行い気分転換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容(地域の業者)を活用している。地域との交流は困難な状況だが、地元のTV放送等を通して話題を見つけ昔の生活の様子等を話して楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的を受診を行っている。ご家族の協力が得られる方は、情報共有しお願いしている。主治医とのコミュニケーションに心がけている。受診時には、家族に直近の状況を伝え、バイタル表を持参してもらう。	入居前からの、かかりつけ医を受診していません。受診時の情報を医師と共有できるように特に家族が付き添う時は、しっかりと情報を伝え共有しています。また受診後は家族と事業所で情報共有を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックを行い、状態の観察で早期発見に心がける。異常があった場合には、ホーム内の看護職に相談し処置や医療につなげている。救急対応もスムーズに行っている。訪問診療の導入は困難。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合には、地域連携パスによる情報提供を行う。コロナ禍で面会はできない為電話での情報共有を行っている。医療介護多種職連携会議に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアを行っている。家族の意向を踏まえて話し合い、意見や要望を十分把握したい。又、医療と連携。職員の理解と心のケアについても今後研修が必要である。重度化していくケースについては、家族、看護師・職員と一緒に支援内容を考えている。	代表が医療職とゆうこともあり、看取りに積極的に取り組まれる体制づくりを現在進行形で構築されています。訪問看護事業所も併設され、医療面でのバックアップ体制も整えられていました。	新体制になり、重度化看取りに関して積極的な取り組みをする中、介護への精神的負担の軽減にも目を向けていただき医療職 介護職が両輪となり看取りに取り組まれくことに期待いたします
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による応急処理や初期対応の訓練を定期的に行うようにする。(心配蘇生法、AEDの訓練等)緊急連絡網の整備、応急処置のマニュアル等の整備。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回花すゝきと合同で行う。夜間想定、日中の火災想定で避難の訓練。通報訓練を地域の皆さんと行う。日頃から職員に火災時のシミュレーション等を行うように周知。災害時の地域の避難施設として行政より委託を受けた。防災士在中。	福祉避難所に指定されており周知されています。避難訓練も以前は地域の方と合同で行われていたようですが今はコロナの影響で難しい状況にあります。	先の台風で事業所に至る道路が冠水した経験もあり、運営推進会議等で出席者と話し合い、地域独自の防災マニュアル等の作成と、安全確保への取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時さりげなくトイレ誘導、パットの汚染時の声かけに配慮している。暴言や介護拒否の方に対しても、自尊心やプライバシーを損なわないように対応している。職員の思いを押し付けることなく傾聴に心がける。	家庭的な雰囲気の中で、その人らしい時間が過ごせる様子を配りながら支援しています。何気ない声掛け、静かな時間が流れていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やその日に着る洋服選び、飲み物等については本人の意見が重視できるように配慮している。朝の起床時間や朝食の時間等自己決定の機会を作る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が今どうしたいのか、どうして欲しいのか？把握し一番良い状態で過ごしていただけるように配慮している。日課として好まれることをしていただく。何をしても良いかわからない方には声かけをする。できることを一緒に行い自身につなげる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分で選んだものを身に付けてもらうように支援をしている。月に1回の訪問理美容を利用し顔そりも行う。好みの髪型にカットしてもらう。お出かけには、口紅等勧めている。寒いと言われ厚着をされる方には、状態観察で対応。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食職員の手作りである。心高食で薄味に。メニューは季節感を味わってもらえるようにしている。野菜の下ごしらえ、食器洗い、食器拭き等一緒にしている。好み、味付け、量には配慮している。ミキサー食も色味に気をつける。	味付けもよく、食事量も適量でした。またミキサー食の方には食材ごとに器を分けて混ぜられないようにするなど、どのようは状態なっても食べることを大切にしたい心配りが感じられました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	見た目、栄養バランス、量的にも考えて調理・盛り付けを行う。糖尿病の方には、米飯制限、心臓病の方には、塩分制限。水分は好みの飲み物やカップを変え雰囲気作り。動きに応じて水分を勧めている。好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のハミガキ、うがい、義歯の洗浄の履行。自歯の方は後で仕上げ磨きを行う。舌の掃除も行う。夜間は入れ歯の洗浄を行う。拒否される方には、無理強いせず、再度促す。義歯の確認。義歯使用しない方は、口腔ウエットで保清。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導、排泄介助の声かけには十分気をつけている。布パンツを利用されている方には、引き続き使用が可能なように自立に向けた支援を行う。布パンツが汚れた時の処理の仕方等も支援している。	排泄の自立が妨げられている原因を、アセスメントをして決定しています。また本人と家族と職員で目標を共有しながら段階的アプローチを試みたりして、個々に添った自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症を持っておられる方には、かかりつけ医と相談しながら薬の調整を行っている。一時的な便秘の方には、食べ物の工夫、水分補給、軽い体操などで対応している。トイレでの排便の習慣づけを行う。収穫したサツマイモを提供。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週7日入浴日を決め一人ひとりに声かけを行いできるだけ希望に応じた回数を入れるように管理している。時間帯も希望に添えるように配慮している。羞恥心、恐怖心、安全には十分注意している。散髪の日は、皆さんシャワー浴を実施。	入浴日時間等、一応は決まっていますが、緊急時また散髪等々必要時に応じた入浴支援が行われています。また、入浴者数も1日3名と職員への負担軽減も考慮しながら、一日の流れに添った支援がなされていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日離床が無理な方については、毎食後短時間休んでいただいている。寝つきの悪い方には、薬に頼らず一緒に話をしたり飲み物を提供して対応している。日中の活動性も取り入れている。朝食後、安眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表のファイルを作り職員が内容を把握できるようにしている。受診時に変更があれば受診ノート、申し送りノートにて周知している。夜勤以外は職員2名以上の確認後(名前、日付)手渡しあるいは直接口に入れて服薬を行っている。便秘薬は調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味などを活かした作業や手伝いが日課として楽しみながら出来るように段取り、声かけを行っている。簡単な役割もできている。暖かいときには、敷地内の散策行う。塗り絵が好きな方は、作品集を作る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ家族との絆を大切にもらう為に受診や外出をお願いしている。コロナ禍で外出制限がある中、紅葉を見に職員と外出支援でドライブを行う。普段は玄関先のベンチで山を見たりおしゃべりして気分転換を図る。	受診の機会などを外出支援への協力として家族にお願いしており、入居者は外食などを帰ってくる笑顔が見られます。コロナ禍でこれまでのような外出はできませんが、天気の良い日は外のベンチでお喋りしてりして気分転換を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小遣いとして現金を預かって管理している。受診時、外出時に、財布より硬貨を出して支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話をして欲しいと希望があった場合は、時間を決めて対応している。手紙や年賀状のやり取りを行っている。遠方からの電話で懐かしそうに話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁飾り、花瓶等で季節感を取り入れている。日常的に季節の時期にあった話を話題にするように心がけている。季節に合った作品を皆さんで作成し展示している。職員の動きにもゆとりがあり忙しさを感じさせないように努力している。	居間は適当な広さと落ち着いた雰囲気が入居者と職員が笑顔で会話を楽しんでいる姿に自由な生活ぶりが窺えました。掃除も行き届いていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、ソファー、マッサージ器、玄関前のベンチなどで自由にくつろいでいただける雰囲気を作るように心がけています。敷地内にある庭で花木など見て会話している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方々には、馴染みの物等を持ってきていただいている。寝具、シーツ類は個人の希望を重視している。壁には家族や孫の写真等飾ったり、TVの持込で好きなときに好きな番組が観られる。	その人らしい暮らしを大切に自由な居室作りで安心して過ごせる様配慮が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室がわかりやすいように目印をしている。危険につながるような物以外は自由に使用できるようにしている。たとえば、掃除が出来る方のために短いほうきとちりとりを準備している。花瓶に花を生けるときのはさみみの準備、定期的に変え等している。		